

学校の落ち着きは「問題」生徒と教師になにをもたらしのか ある「荒れ」た中学校でのフィールドワークから(2)

松嶋秀明

(滋賀県立大学 人間文化学部)

問題・目的

一般に非行的問題行動については、その初期段階での予防的介入が重要であることがわかっている（例えば 小林, 2007; 岡邊・小林, 2006; 西野・氏家・二宮ら, 2009）。非行問題の多くが生じる中学校がそれに果たす役割は大きい。このなかで学校とのつながりを持ち、通い続けられることが、少年のその後の適応にいい影響を与えることを示す結果は数多くある（Resnick, et. al, 1997; Crosnoe, et. al, 2002; CDC, 2011, 岡邊, 2010）。ただし、登校することが非行化の保護因子となる一方、登校しないことがリスク因子にもなる（Loeber, et. al, 2001）といったように、学校にいたことがよい適応をうみだすというよりも、むしろ両者は相関関係にあるとみるべきだろう。特定の指導体制が非行の抑制に効果があるとする報告（例えば、山本, 2007）もあるが、一方で教師がそれにあたることの困難性を指摘する研究も少なくない（例えば、羽間, 2006）。非行的な問題を生じる少年への関わりの指針を見いだすには、少年がどのようにして学校とのつながりを持ち続けるのか、そのプロセスをおう必要があるだろう。これまで質問紙調査によって縦断研究をおこなったものがあり、そこでは非行的問題をあらわす子どもは、反社会的な友人の存在があり、自己価値、親への愛着、学業能力などが低い値を示すことがわかっている（小保方・無藤, 2006; 西野・氏家・二宮ら, 2009）。しかし、非行的問題をつよめる要因そのものよりも、それらの諸要因が具体的な実践のなかで、どのような相互連関をしているのかをみていくことが重要だと思われる。そこで、筆者は「荒れ」が指摘されるある中学校の1つの学年を3年間に渡って追跡し、エスノグラフィックに記述することを試みてきた。本報告では、そのうちの2年目までに焦点をあてる。

方法

調査対象：X県内の公立中学校1校（A中学）が調査対象校となった。子育て上のリスクを抱える家庭が少なく、生徒指導上の問題がおきやすいとみられている。全校生徒は約700人で、この地域では大規模校といえる。

調査時期：X年5月からX+2年3月まで、隔週から月1回、午前10時～15時くらいまでの時間帯に中学校に赴いた（X年度は通算19回、X+1年度は16回）。

調査方法：(1)実践関与的フィールドワークおよび、(2)春休み期間を利用して、教師への1時間程度の半構造化インタビュー(生徒指導主事には、X年度およびX+1年度ともに、学年担当の教師についてはX年度には5名、X+1年度は2名にインタビューをおこなった)。(1)では、研究者は教室の内外で生徒に、(指導には責任をおわないが)関わりつつ観察をおこなった。また、その日の観察で感じたことを中心に、教師と情報交換をおこなった。

結果と考察

A中学校は1年生の3学期にはいと徐々に落ち着いてきた(松嶋, 2012)。2年生になると一層落ち着いたと認識されるようになった。ここで加藤ら(加藤・大久保, 2006; 加藤, 2011)によれば、「荒れ」ている学校では「問題」とみられる生徒を許容する雰囲気があることが指摘されている。これは逆に、荒れが収束する段階においては「問題」生徒が集団内に居づらくなる環境がうまれてしまうことを示唆しているように思われる。実際、1年生時に荒れの中心にいた生徒たちのなかでは、クラスから孤立する生徒も何人かあられ、なかには「僕には友達がいらない」と担任にもらす生徒もいた。一方、問題行動に親和的であると同時に、2学期以降、自発的に教室に入る時間が増えた生徒も少数ながらいいた。この生徒は、部活動などでのつながりを軸として教室に入れたことがその契機となっていた。さて、「問題」生徒を学校につなぐために、教師たちはどのような指導を行なっていたらうか。教師へのインタビューでは、「問題」生徒の方は放っておいても声をかけてもらいやすい立場にいるが、その陰に隠れて、声があげられない生徒たちがいることが語られ、そうした生徒へのケアの必要性について語られることが多かった。これは一般生徒のなかで、これまでは「荒れ」の中心にいた生徒たちの行動に萎縮して声があげられなかった生徒たちが、彼らの存在になれて、友達としてつきあうようになる例まであらわれたことや、イジメにつながりやすいからかいなどに対して無視していた生徒たちが、傍観者の役割をおりようとはじめた事例や、クラスでなんとかしようという声が生徒からあがるといった出来事など、教師にとって一般生徒の頑張りを意識させる出来事が目についたことも影響していると思われた。